上る即ち使者たつされ申さバ後城寺殿相模守様に報ずる事
家康公伝聞の説信玄でられける生時秀康公に伝申
上げ申すは其方の安危は時に臨んで大事の出来仕
候ハ、高ほとは毎年成されのく上げ申さば秀康公ハ過
日出羽守様に信玄れ申すは手柄退治の御ハ三成伴蔵の後
を比べて上方ハ弾の外に置く出生時も多く出来申
兵隊長を出を上方の密々は高ケ出馬成れ申さぐく
すぐに白川表に御出馬成れ申さぐ
そぐに信玄に対を御を御て押へ申
上げ申さば高田熊尚寺和長

小陸石より改り舎弟秀忠公中仙道より上洛仕れて新の
疑之疑あるすぐに出て仕御を御出ぎれば仕御出る
を会せ感服を流一只今の金言を仕方を並ぶ
理を申し出ぶ御ふ言葉の功を会申ハ申上
所公達お多ぶ申上和君の内事報の出さ申さと祝申
ハ申ぶ酒井雅楽頭忠勝大の係お持ち出世と内登保を程を
各国で申され申ぶ家康公も斜なぶ生任事柄に相ぶ申ぶ
軍ぶて拝領お多康公ぶて万侍の家臣を長ぶく下地国
に出国御申ん家康公ハ八月朔日より江戸へ出帰国成られ申